

## 基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン キンジョウガクエン 学校法人 金城学園								
フリガナ大学の名称	キンジョウガク 金城大学 (Kinjo University)								
大学本部の位置	石川県白山市笠間町1200番地								
大学の目的	本学は、教育基本法及び学校教育法の精神に則り、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を養い、文化の向上及び社会の福祉に寄与する人材を育成することを目的とする。								
新設学部等の目的	全ての人々が幸せに生きることのできる社会の実現を目指し、福祉を志す上で欠かせない、人間への深い理解と福祉の未来を見据える先見性を身に付け、将来は地域社会、保育現場などにおいて指導的役割を担える人材を養成する。とりわけ、子どもの「生きる力」を引き出すことができるとともに、地域社会との関わりの中で保護者を支援し、ひいては地域福祉にも貢献できる子ども福祉のエキスパートを養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	社会福祉学部 (Faculty of Social Work) 子ども福祉学科 (Department of Child Welfare)  計	4	70	3年次 5  3年次 5	290	学士 (子ども福祉学)	平成30年4月 第1年次  平成32年4月 第3年次	石川県白山市笠間町 1200番地	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	社会福祉学部社会福祉学科 (社会福祉専攻) (専攻制廃止) (△10) (平成30年4月) 社会福祉学部社会福祉学科 (こども専攻) (廃止) (△50) (平成30年4月) (3年次編入学定員) (△5) ※平成30年4月学生募集停止 (社会福祉専攻及びこども専攻) (3年次編入学定員は平成32年4月学生募集停止) ※社会福祉専攻及びこども専攻に在籍する全ての学生が卒業後、専攻制廃止 医療健康学部理学療法学科 [定員減] (△5) (平成30年4月) 医療健康学部作業療法学科 [定員減] (△5) (平成30年4月)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	社会福祉学部 子ども福祉学科	講義	演習	実験・実習	計	132単位			
教員	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
組	新設	社会福祉学部子ども福祉学科	5 (5)	3 (3)	1 (1)	2 (2)	11 (11)	1 (1)	46 (13)
	計		5 (5)	3 (3)	1 (1)	2 (2)	11 (11)	1 (1)	— (—)
設	既設	社会福祉学部社会福祉学科	7 (7)	3 (3)	4 (4)	4 (4)	18 (18)	2 (2)	48 (48)
		医療健康学部理学療法学科	6 (6)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	1 (1)	36 (36)
		医療健康学部作業療法学科	4 (4)	2 (2)	2 (2)	1 (1)	9 (9)	1 (1)	38 (38)
		看護学部看護学科	14 (14)	2 (2)	5 (5)	4 (4)	25 (25)	5 (5)	46 (46)
	計		31 (31)	11 (11)	15 (15)	9 (9)	66 (66)	9 (9)	— (—)
要	合計		36 (36)	14 (14)	16 (16)	11 (11)	77 (77)	10 (10)	— (—)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体				
	事 務 職 員		29 (29)	5 (5)	34 (34)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)	0 (0)	2 (2)					
	そ の 他 の 職 員		2 (2)	0 (0)	2 (2)					
	計		33 (33)	5 (5)	38 (38)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	金城大学短期大学部（必要面積 7,000.00㎡）と共用 借用面積：2,239.40㎡ 借用期間：50年				
	校 舎 敷 地	2,239.40 ㎡	84,439.00 ㎡	0 ㎡	86,678.40 ㎡					
	運 動 場 用 地	0 ㎡	18,379.00 ㎡	0 ㎡	18,379.00 ㎡					
	小 計	2,239.40 ㎡	102,818.00 ㎡	0 ㎡	105,057.40 ㎡					
	合 計	2,239.40 ㎡	111,753.00 ㎡	1,978.00 ㎡	115,970.40 ㎡					
校 舎	専 用	18,602.44 ㎡	2,929.48 ㎡	8,911.94 ㎡	30,443.86 ㎡	金城大学短期大学部(必要面積 5,450.00㎡)と共用 (30,443.86 ㎡)				
	(18,602.44 ㎡)	(2,929.48 ㎡)	(8,911.94 ㎡)	(30,443.86 ㎡)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 (補助職員0人)				
	36 室	21 室	16 室	1 室 (補助職員0人)	0 室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数						
	社会福祉学部子ども福祉学科			11 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	金城大学短期大学部との共用分 を含む全体 図書111,563冊〔10,187冊〕 学術雑誌342種〔67種〕 視聴覚資料1,729点〔418点〕 電子ジャーナル11種〔11種〕		
	社会福祉学部 子ども福祉学科	9,029〔145〕 (8,429〔140〕)	28〔6〕 (28〔6〕)	0〔0〕 (0〔0〕)	215 (212)	650 (587)	0 (0)			
	計	9,029〔145〕 (8,429〔140〕)	28〔6〕 (28〔6〕)	0〔0〕 (0〔0〕)	215 (212)	650 (587)	0 (0)			
図 書 館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		金城大学短期大学部と共用 笠間キャンパス：673.93㎡ 閲覧席数212席 松任キャンパス：114.30㎡ 閲覧席数32席				
	788.23 ㎡	244 席		83,000 冊						
体 育 館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要								
	2,722.39 ㎡	テニスコート7面								
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	届出学科全体 図書費には、データベースの整備費（運用コスト等を含む）を含む。
		教員1人当り研究費等		500千円	500千円	500千円	500千円	—	—	
		共同研究費等		5,000千円	5,000千円	5,000千円	5,000千円	—	—	
		図書購入費	500千円	500千円	500千円	500千円	500千円	—	—	
		設備購入費	10,000千円	500千円	500千円	500千円	500千円	—	—	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,210 千円	1,000 千円	1,000 千円	940 千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、私立大学経常費補助金収入、資産運用収入等で充当							

既設大学等の状況	大学の名称	金城大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	社会福祉学部			3年次			0.82		石川県白山市笠間町1200番地
	社会福祉学科	4	150	10	620	学士(社会福祉学) 学士(子ども福祉学)	0.82	平成12年度	
	医療健康学部						0.99		
	理学療法学科	4	65	—	290	学士(理学療法学)	1.08	平成19年度	
	作業療法学科	4	35	—	140	学士(作業療法学)	0.90	平成25年度	
	看護学部						1.11		石川県白山市笠間町1200番地及び石川県白山市倉光一丁目250番地
	看護学科	4	80	—	240	学士(看護学)	1.11	平成27年度	
大学院						0.50		石川県白山市笠間町1200番地	
総合リハビリテーション学研究科	2	5	—	10	修士(リハビリテーション学)	0.50	平成27年度		
総合リハビリテーション学専攻(修士課程)									
既設大学等の状況	大学の名称	金城大学短期大学部							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	幼児教育学科	2	150	—	300	短期大学士(幼児教育)	1.07	昭和51年度	石川県白山市笠間町1200番地
美術学科	2	65	—	130	短期大学士(美術)	1.05	昭和51年度		
ビジネス実務学科	2	135	—	270	短期大学士(ビジネス実務)	0.89	昭和59年度		
附属施設の概要	該当なし								

## 学校法人金城学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>金城大学</b>				<b>金城大学</b>				
		3年次				3年次		
社会福祉学部 社会福祉学科 社会福祉専攻	100	5	410	社会福祉学部 社会福祉学科	<u>90</u>	5	<u>370</u>	定員変更(△10)
こども専攻	50	5	210	子ども福祉学科	<u>70</u>	5	<u>290</u>	学部の学科の設置 (届出)
医療健康学部 理学療法学科	65	-	260	医療健康学部 理学療法学科	<u>60</u>	-	<u>240</u>	定員変更(△5)
作業療法学科	35	-	140	作業療法学科	<u>30</u>	-	<u>120</u>	定員変更(△5)
看護学部 看護学科	80	-	320	看護学部 看護学科	80	-	320	
計	330	10	1,340	計	330	10	1,340	
<b>金城大学大学院</b>				<b>金城大学大学院</b>				
総合リハビリテーション学研究科 総合リハビリテーション学専攻	5	-	10	総合リハビリテーション学研究科 総合リハビリテーション学専攻(M)	5	-	10	
計	5	-	10	計	5	-	10	
<b>金城大学短期大学部</b>				<b>金城大学短期大学部</b>				
幼児教育学科	150	-	300	幼児教育学科	150	-	300	
美術学科	65	-	130	美術学科	65	-	130	
ビジネス実務学科	135	-	270	ビジネス実務学科	135	-	270	
計	350	-	700	計	350	-	700	

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要															
(社会福祉学部子ども福祉学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	スポーツ	1前	1					○		1					兼1
	スポーツ理論	1後	2				○								兼1
	レクリエーション活動Ⅰ	3前		1				○							兼1
	レクリエーション活動Ⅱ	3後		1				○							兼1
	英語Ⅰ	1前	1					○							兼2
	英語Ⅱ	1後	1					○							兼2
	英語Ⅲ	2前	1					○							兼2
	英語Ⅳ	2後		1				○							兼1
	言葉と文化（英語）Ⅰ	2前		1				○							兼1
	言葉と文化（英語）Ⅱ	2後		1				○							兼1
	言葉と文化（中国語）Ⅰ	2前		1				○							兼1
	言葉と文化（中国語）Ⅱ	2後		1				○							兼1
	言葉と文化（英語）Ⅲ	3前		1				○							兼1
	言葉と文化（英語）Ⅳ	3後		1				○							兼1
	言葉と文化（中国語）Ⅲ	3前		1				○							兼1
	言葉と文化（中国語）Ⅳ	3後		1				○							兼1
	学習方法演習Ⅰ	1前	1					○			1		2		
	学習方法演習Ⅱ	1後	1					○			1		2		
	基礎演習Ⅰ	2前	1					○			1		2		
	基礎演習Ⅱ	2後	1					○			1		2		
	情報処理演習Ⅰ	1後		1				○							兼1
	情報処理演習Ⅱ	2前		1				○							兼1
小計（22科目）	—	—	10	13	0			—		1	1	0	2	0	兼7
主題科目	ボランティア入門	1前	2				○								兼1
	ボランティア活動Ⅰ	1通		1						2			1		
	ボランティア活動Ⅱ	2通		1						2			1		
	健康科学	3前		2			○								兼1
	生命科学	3後		2			○								兼1
	自然科学	3後		2			○								兼1
	美術	1前		1				○			1				
	日本文学Ⅰ	3後		2			○								兼1
	日本文学Ⅱ	4後		2			○								兼1
	自然地理	4前		2			○								兼1
	地誌	4後		2			○								兼1
	白山市の自然と文化	3前		2			○								兼1
	日本史Ⅰ	3後		2			○								兼1
	日本史Ⅱ	3後		2			○								兼1
	日本語表現	1後		2			○								兼1
	文書処理演習	1前		1				○							兼1
	哲学	3前		2			○								兼1
	宗教学	3後		2			○								兼1
	東洋史	4後		2			○								兼1
	西洋史	4前		2			○								兼1
	人文地理	3前		2			○								兼1
	器楽Ⅰ	1後		1				○		1			1		兼3
器楽Ⅱ	2前		1				○		1			1		兼3	

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(社会福祉学部子ども福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
主題科目	器楽Ⅲ	2後		1			○		1				1		兼3
	器楽Ⅳ	3前		1			○		1				1		兼3
	音楽	1前		1			○		1						
	図画工作Ⅰ	1後		1			○			1					
	図画工作Ⅱ	3前		1			○			1					
	幼児体育Ⅰ	1後		1			○		1						
	幼児体育Ⅱ	2前		1			○		1						
	子どもと文化	3後		1			○								兼1
	子どもと生活	1後		2			○		1						
	法学(憲法)Ⅰ	3前		2			○						1		
	法学Ⅱ	3後		2			○						1		
	政治学	4前		2			○								兼1
	経済学Ⅰ	3後		2			○								兼1
	経済学Ⅱ	4前		2			○								兼1
	統計学	4前		2			○								兼1
	教養ゼミⅠ	1前		1				○							兼1
	教養ゼミⅡ	1後		1				○							兼1
教養ゼミⅢ	2前		1				○							兼1	
小計(41科目)		—	2	63	0		—		3	1	0	2	0	兼21	—
専門基本科目	社会福祉概論Ⅰ	1前	2				○								兼1
	社会福祉概論Ⅱ	1後	2				○								兼1
	高齢者福祉論	3後	2				○								兼1
	障害者福祉論	2後	2				○								兼1
	児童・家庭福祉論	1後	2				○								兼1
	介護福祉論Ⅰ	3前	2				○								兼1
	社会福祉史	4後		2			○								兼1
	介護福祉論Ⅱ	3後		2			○								兼1
	心理学Ⅰ	1前		2			○								兼1
	心理学Ⅱ	1後		2			○								兼1
	社会学	1前		2			○								兼1
	社会保障論Ⅰ	3前		2			○					1			
	社会保障論Ⅱ	3後		2			○					1			
	公的扶助論	3前		2			○					1			
	地域福祉論Ⅰ	3前		2			○								兼1
	地域福祉論Ⅱ	3後		2			○								兼1
	社会福祉施設経営論	2後		2			○								兼1
	社会調査	3前		2			○								兼1
	福祉行政と福祉計画	4後		2			○								兼1
	医療福祉論	3後		2			○								兼1
	就労支援	4前		1			○								兼1
権利擁護と成年後見	4前		2			○					1				
更生保護	4前		1			○								兼1	
小計(23科目)		—	12	32	0		—		0	0	0	1	0	兼10	—
専門展開科目	ソーシャルワーク論Ⅰ	1前		2			○		1						
	ソーシャルワーク論Ⅱ	1後		2			○		1						
	ソーシャルワーク論Ⅲ	2前		2			○								兼1
	ソーシャルワーク論Ⅳ	2後		2			○								兼1
	ソーシャルワーク論Ⅴ	3前		2			○								兼1

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(社会福祉学部子ども福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
専 門 展 開 科 目	ソーシャルワーク論Ⅵ	3後		2		○									兼1
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2後		1			○		2						兼2
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	3前		1			○		1						兼2
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	3後		1			○		1						兼1
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	4前		1			○		1						兼1
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	4後		1			○		1						兼1
	相談援助	4前		1		○			1						
	家庭支援論	2前		2		○			1						
	保育者論	2前		2		○									兼1
	幼児教育者論	1後	2			○			1						
	幼児教育原理	1前	2			○			1						
	保育内容総論	1前	1			○									兼1
	保育課程論	1前	2			○			1						
	保育方法論	3前	2			○									兼1
	保育原理Ⅰ	1前	2			○					1				
	保育原理Ⅱ	1後		2		○					1				
	社会的養護	1前	2			○									兼1
	社会的養護内容	2後		1			○								兼1
	発達心理学Ⅰ	2前		2		○									兼1
	発達心理学Ⅱ	2後		2		○									兼1
	保育の心理学	3後		1			○				1				
	幼児教育心理学	2前		2		○									兼1
	臨床心理学Ⅰ	3前		2		○									兼1
	臨床心理学Ⅱ	3後		2		○									兼1
	人格心理学	3後		2		○									兼1
	カウンセリングⅠ	3後		2		○									兼1
	カウンセリングⅡ	3後		2		○									兼1
	幼児理解と教育相談	3前	2			○									兼1
	保育相談支援	3前		1			○								兼1
	医学一般	2前		2		○									兼1
	リハビリテーション論	3前		2		○									兼1
	公衆衛生学	4前		2		○									兼1
	生理学	4前		2		○									兼1
	母子保健	2後		2		○									兼1
	子どもの保健Ⅰ	1後		2		○									兼1
	子どもの保健Ⅱ	2前		1			○								兼1
	障害児保育	2前		2		○									兼1
	障害児保育演習Ⅰ	2前		1			○								兼1
	障害児保育演習Ⅱ	2後		1			○								兼1
	生活支援技術Ⅰ	3前		2			○								兼1
手話	4前		1			○								兼1	
点字	4前		1			○								兼1	
保育内容(健康の指導Ⅰ)	2前	1				○								兼1	
保育内容(健康の指導Ⅱ)	2後	1				○								兼1	
保育内容(言葉の指導Ⅰ)	1前	1				○				1					
保育内容(言葉の指導Ⅱ)	1後	1				○				1					
保育内容(人間関係の指導Ⅰ)	2前	1				○				1					
保育内容(人間関係の指導Ⅱ)	2後	1				○				1					

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(社会福祉学部子ども福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門 展 開 科 目	保育内容（環境の指導）	2前	1					○		1						
	保育内容（音楽表現の指導Ⅰ）	2前	1					○		1						
	保育内容（音楽表現の指導Ⅱ）	2後	1					○		1						
	保育内容（美術表現の指導Ⅰ）	2前	1					○			1					
	保育内容（美術表現の指導Ⅱ）	2後	1					○			1					
	子どもの食と栄養Ⅰ	1前		1				○								兼1
	子どもの食と栄養Ⅱ	1後		1				○								兼1
	乳児保育Ⅰ	1前		1				○								兼1
	乳児保育Ⅱ	1後		1				○								兼1
	保育実習指導Ⅰ-A	2通		1				○		2	3	1	1	1		
	保育実習指導Ⅰ-B	2通		1				○		2	2		1	1		兼1
	保育実習Ⅰ-A	2通		2					○	2	3	1	1	1		
	保育実習Ⅰ-B	2通		2					○	2	2		1	1		兼1
	保育実習指導Ⅱ	2後		1				○		2	3	1	1	1		
	保育実習Ⅱ	2後		2					○	2	3	1	1	1		
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	3通		1				○		2						
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3通		1				○		2						
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	4前		1				○		2						
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	3通		1					○	2						
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	3通		3					○	2						
	幼児教育実習指導	3前～4前		1				○		2	3	1	1	1		兼1
	幼児教育実習Ⅰ	3後		2					○	2	3	1	1	1		兼1
	幼児教育実習Ⅱ	4前		2					○	2	3	1	1	1		兼1
	早期現場体験指導	1後		1				○		2	3	1	1	1		
	早期現場体験	1後		1					○	2	3	1	1	1		
	教育関係法規	2後		2			○						1			
	教育情報機器演習	2後		2				○								兼1
	保育・教職実践演習（幼稚園）	4後		2				○		1	2	1	1			共同
	ジェンダー	4後		2			○									兼1
	海外文化・福祉事情	1後		2					○							兼4 共同
	国際福祉政策	4前		2			○									兼1
基礎ゼミⅠ	3前		1				○		3	2	1					
基礎ゼミⅡ	3後		1				○		3	2	1					
卒業研究ゼミⅠ	4前		1				○		3	2	1					
卒業研究ゼミⅡ	4後		1				○		3	2	1					
福祉総合学習	4前			2		○			1			1				
福祉総合演習	4後			1			○		1			1				
卒業論文	4通		4				○		3	2	1					
小計（91科目）	—		34	106	0			—	5	3	1	2	1		兼28	—
留 学 生 科 目	日本語Ⅰ	1前		2				○								兼1
	日本語Ⅱ	1後		2				○								兼1
	日本語Ⅲ	2前		2				○								兼1
	言葉と文化（日本語）Ⅰ	2後		1			○									兼1
	言葉と文化（日本語）Ⅱ	3前		1			○									兼1
小計（5科目）	—		0	8	0			—	0	0	0	0	0		兼1	—



## 教 育 課 程 等 の 概 要

(社会福祉学部子ども福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
合計 (182科目)		—	58	222	0	—			5	3	1	2	1	兼46	—
学位又は称号	学士 (子ども福祉学)		学位又は学科の分野			社会学・社会福祉学関係, 教育学・保育学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
必修科目58単位、基礎科目及び主題科目から18単位、専門基本科目から14単位、専門展開科目から24単位以上を修得し、132単位以上修得すること。 留学生は、留学生科目の単位を基礎科目の外国語系科目の単位に代えることができる。 (履修科目の登録の上限：48単位 (年間) )						1 学年の学期区分			2学期						
						1 学期の授業期間			15週						
						1 時限の授業時間			90分						

授 業 科 目 の 概 要			
(社会福祉学部子ども福祉学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	スポーツ	現在の子どもたちは、自然の中で行う遊ぶ機会、しかも集団遊びをする機会が失われてきた。その結果、若者たちの体力低下が指摘され、仲間づくりが不得意な学生が増えている。次の世代を担う学生たちが心身共に健全であることを願い、生涯親しむことの出来るスポーツの生活化を実践していく。実施種目は、パドルテニス、グラウンドゴルフ、ユニバーサルホッケー、ソフトバレーボール等である。技術の修得時や競技では、コミュニケーション能力を発揮し、仲間と共にスポーツを心底から楽しみ、その魅力を認識できるようにする。	
	スポーツ理論	現代社会の運動不足、精神的ストレスといった大きな健康問題に対し、どうしたら意欲的に運動し、体のあらゆる機能を改善・向上し、豊かで逞しい生活をしていけるかを大切なテーマとしている。運動スポーツは、本来その活動そのものに爽快感や充実感などといった心理的側面が大きく反映し、運動スポーツの楽しさとなっている点に注目し、運動スポーツを実践していく上で必要な心理的なスキルをどのように身につけ、やる気、持続力、パフォーマンスを高めていくのかを学ぶ。	
	レクリエーション活動Ⅰ	レクリエーションの社会的意義を理解させ、レクリエーション活動の援助者として、関係各現場におけるレクリエーション活動に関する計画・諸準備・援助法・評価法等について学んでいく。そして、レクリエーション活動計画の作成能力を修得し、レクリエーション活動の実践的援助能力を向上させる。	
	レクリエーション活動Ⅱ	「レクリエーション活動Ⅱ」では、「レクリエーション活動Ⅰ」で学んだ内容を深め、実践力・応用力を高めるために、「テュートリアル」や「シミュレーション」を取り入れた授業形態で開講し、自学自習の学習態度を学ぶ。	
	英語Ⅰ	リスニング、スピーキングの基礎力を養成する。高校までに修得した知識・技能を再確認することから始め、大量の平易な英文を聞いたり話したりする練習を繰り返すことによって、英語の音声に習熟することを目指す。映画・テレビドラマなどのオーセンティックな教材を活用し、日常的な場面において頻出する基本的な表現を学習する。さらに学習した表現を用いて、口頭で簡単なやり取りをする技能を身につける。25人程度のクラスで学生同士の対話・共同作業を重視する演習を行う。個人またはグループによるプレゼンテーションを適時行う。	
	英語Ⅱ	リーディング、ライティングの基礎力を養成する。高校までに修得した知識・技能を再確認することから始め、大量の平易な英文を読んだり書いたりする練習を繰り返すことによって、英語の書き言葉に習熟することを目指す。新聞・雑誌等のオーセンティックな教材を活用し、日常的な場面において頻出する基本的な表現を学習する。さらに学習した表現を用いて、文章で自分の考えを表現する技能を身につける。25人程度のクラスで学生同士の対話・共同作業を重視する演習を行う。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(社会福祉学部子ども福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	英語Ⅲ	「英語Ⅰ」に引き続き、リスニング、スピーキングの実践力を養成する。難易度の高い英文を聞いたり話したりする練習を繰り返すことによって、英語の聴解力、発話力をより一層発展させることを目指す。ディベート等を取り入れ、日常会話だけでなく抽象度の高い内容について議論できる技能を身につける。25人程度のクラスで学生同士の対話・共同作業を重視する演習を行う。個人またはグループによるプレゼンテーションを適時行う。	
	英語Ⅳ	「英語Ⅱ」に引き続き、リーディング、ライティングの実践力を養成する。難易度の高い英文を読んだり書いたりする練習を繰り返すことによって、英語の読解力、文章力をより一層発展させることを目指す。新聞・論文等の抽象度の高い内容の文章を教材にして、文章を批判的に読みこなす技能と自分の考えを論理的文章で表現する技能を身につける。25人程度のクラスで学生同士の対話・共同作業を重視する演習を行う。	
	言葉と文化（英語）Ⅰ	自然な英語に耳を慣れさせ、英会話力を一層向上させることを目的とする、初級から中級レベルの英会話の授業である。日常生活でよく使われる表現を使って会話する上で必要な、動詞の活用や代名詞の使用の習慣、語彙の増強と縮約形の利用に重点を置く。教材としては、英米の若者の文化や生活習慣に関する英文やビデオなどを多く使用する。原則として、授業は英語で行うが、学生のレベルは考慮する。少人数クラスで学生同士の対話、共同作業を重視する演習を行う。	
	言葉と文化（英語）Ⅱ	「言葉と文化（英語）Ⅰ」を更に発展させ、実践的な英語によるコミュニケーション能力の修得を目的とする。口語表現を用いて「話す」ことと「書く」ことを重視する。学生が主体的に行うスピーチやライティングを通し、自分の考えを英語で表現し、さらに、意見交換をすることができる基礎力を身につけることを目指す。教材としては、英米の若者の文化や生活習慣に関するものを多く使用する。原則として授業は英語で行う。少人数クラスで学生同士の対話、共同作業を重視する演習を行う。	
	言葉と文化（中国語）Ⅰ	中国語の初心者を対象とした入門レベルの授業を行う。中国語の特徴、簡体字と繁体字、発音のローマ字表記ーピン音、音節の構造など、中国語に関する基礎的知識を身につけ、子音と母音、イントネーション、ピン音の綴りの規則、簡単な挨拶文、自己紹介文、年月日・曜日の表現、電話番号の言い方、人称代名詞・常用疑問詞・否定副詞・動詞「是」と「有」の用法を修得することを目標にする。中国の社会・歴史・文化にも触れつつ、授業を進める。	
	言葉と文化（中国語）Ⅱ	「言葉と文化（中国語）Ⅰ」を踏まえ、動詞・形容詞・助数詞の用法、句や文の構成法を重点に置き、時点・時間量の言い方、年齢の表現、値段の聞き方・お金の単位などの重要構文を正確に覚えておく。さらに動詞述語文の基本語順、推量・疑問・提案・命令の表現、時制とアスペクト、所在を表す動詞「在」と前置詞「在」、存在を表す動詞「有」と所有を表す動詞「有」など基本的な文法事項を身につけることを目指す。	
	言葉と文化（英語）Ⅲ	「言葉と文化（英語）Ⅱ」に引き続き、英語圏の人々が日常生活において実際に使っている英語を集めた教材を用いて英語の総合的運用能力の向上と英語圏の文化の理解を目指す。受講者の関心に沿った内容の授業を行う予定であり、少人数クラスで学生同士の対話、共同作業を重視する演習を行う。英語圏の文化に対する深い理解に基づいた、英語による実践的コミュニケーション能力を身につける。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(社会福祉学部子ども福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	言葉と文化（英語）Ⅳ	「言葉と文化（英語）Ⅲ」に引き続き、英語圏の人々が日常生活において実際に使っている英語を集めた教材を用いて、更なる英語の実用的能力の向上と英語圏の人々の生活習慣等を含めた文化を総合的に理解することを目指す。受講者の関心に沿った内容の授業を行う予定であり、少人数クラスで学生同士の対話、共同作業を重視する演習を行う。英語圏の文化に対する深い理解に基づいた、英語による実践的コミュニケーション能力を身につける。	
	言葉と文化（中国語）Ⅲ	「言葉と文化（中国語）Ⅱ」を踏まえ、すでに学んできた発音、語彙、文法を復習しながら、助動詞・前置詞の用法、動詞の進行形・過去形・未来形を重点に置き、中国社会、現代中国人の考え方も取り入れたレッスンをを行う。読む・話す・聞く・書くの演習を行い、名詞述語文・動詞述語文・形容詞述語文の基本語順および時制、助動詞・前置詞の用法を身につけることを目標にする。	
	言葉と文化（中国語）Ⅳ	「言葉と文化（中国語）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で修得した語彙と文法を確認し、さらに語彙や文型を増やして使役文・受身文・仮定文・補語・「把」構文を修得する。読解力および「コミュニケーション力」のレベルアップを図っていく。動詞の進行・完了、時間・場所・方向、形容詞の比較表現を身につけ、辞書を利用して比較的平易な中国語原文を読み、翻訳することができる能力を身につける。	
	学習方法演習Ⅰ	大学での学習に必要な知識・技能、学習態度を演習形式で学ぶ。また、大学に必要な手続きや取得可能資格、就業観についても職業と関連付けながら採り上げる。ノートテイク・レポート・プレゼンテーション等に必要な基礎能力、社会福祉学部学ぶ学生として最低限必要な「社会」に関する基礎的知識と考え方を修得する。	
	学習方法演習Ⅱ	「学習方法演習Ⅰ」の成果を受け、大学での学習に必要な知識・技能を演習形式で学ぶ。また、就業観についても職業と関連付けながら採り上げる。作文やレポートの執筆等に必要能力を身につける。	
	基礎演習Ⅰ	「学習方法演習Ⅰ・Ⅱ」で身につけた知識・技能を応用し、演習形式で学ぶ。新聞記事・ブックレット・新書・論文等、比較的身近で平易なものを材料として、担当教員から指示された課題について、調査した結果を各自発表する。大学でレポートを執筆することに不自由しない程度まで「調べる・整理する・まとめる・発表する」能力等を伸ばすことを目標とする。	
	基礎演習Ⅱ	「学習方法演習Ⅰ・Ⅱ」及び「基礎演習Ⅰ」で修得した知識・技能を応用し、引き続き少人数の演習形式で学ぶ。あらかじめ公表された各担当教員のテーマに従ってゼミナールが行われる。その中で、3年次から始まる基礎ゼミに備え「調べる・整理する・まとめる・発表する」能力等を伸ばすことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(社会福祉学部子ども福祉学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	情報処理演習Ⅰ	「情報の処理及び表現の能力」、「問題解決能力」の修得を目的に、いくつかの問題解決技法と問題解決のための表計算ソフトウェア利用技術の修得を目標に、以下の内容で授業を展開する。表計算ソフトウェアの基礎、データベースの操作、アンケートの集計、グラフによるデータの可視化、回帰分析によるデータの推定、投票による社会的選択、階層分析法による意思決定、モンテカルロシミュレーションを学ぶ。	
	情報処理演習Ⅱ	「情報の収集、処理、及び表現の能力」の修得を目標に、口頭表現と表現技法、ストーリー（アウトライン）とシナリオの作成をテーマとして、模擬発表会中心の演習形式の授業を行う。授業は以下の内容で展開する。プレゼンテーションの概要、プレゼンテーションソフトウェアの基本操作、表現技法（口語表現）、取材・ストーリー（アウトライン）とシナリオの作成、プレゼンテーション資料の作成、発表会・相互評価を学ぶ。	
主題科目	ボランティア入門	ボランティアの本質は、主体性に基づく活動による「共感あう社会づくり」にあるといえる。今日においては、ボランティア・市民活動として、多様な分野で取り組みがなされており、個別的にも社会的にも大切な役割を担っている。この科目では、ボランティアの思想と歴史、そして役割及び意義、今日的課題に至るまでを学習する。同時に、ボランティア活動の具体的事例を織り交ぜながら学ぶことにより、活動への参加意欲を高めたい。	
	ボランティア活動Ⅰ	学生が参加したボランティア活動について、科目担当教員等によって構成されるボランティア活動担当者連絡会議に、活動レポートが提出されたものを単位認定対象とする。一定の活動内容、活動時間等の要件を満たすことが確認された場合に、成績の評価、単位の認定を行う。「ボランティア活動Ⅰ」では、地域の病院・社会福祉施設・団体等における多様な活動への参加を促すよう、広範なボランティア活動について、単位認定を行う。	
	ボランティア活動Ⅱ	学生が参加したボランティア活動について、科目担当教員等によって構成されるボランティア活動担当者連絡会議に、活動レポートが提出されたものを単位認定対象とする。「ボランティア活動Ⅱ」では、「ボランティア活動Ⅰ」での体験を基に、地域の病院・社会福祉施設・団体等の行事等から個々の学生の学習目標に応じて選択した、継続的な活動を含むボランティア活動について、単位の認定を行う方針である。	
	健康科学	現代の健康問題を段階を追って解説しながら、病気の予防、健康の維持・増進のための健康論を系統的に論じて、健康への関わりについて考えさせる。健康の概念、内容を十分に理解し、健康寿命を全うするためにどのような生活習慣を送るべきかを、自らの生活の中で自覚を深めることを目標とする。	
	生命科学	私たち人間はどこから来て、どこへ行くのかというのは、昔から興味のないテーマである。生命のはじまりや生命を形づくっているもの、老化や死の訪れなどを解説して、生命とは何かを論じていく。生命とは何かや生命現象への興味を引き出し、人間の生命や死を通して、これからの人生を送るうえでのもの見方や考え方の方法を修得する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(社会福祉学部子ども福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 題 科 目	自然科学	自然科学は、自然現象の観察・実験を通して、自然を理解する過程で発達してきた。自然現象の背後で働く原理について理解し、現代的な自然科学的物質観を涵養することを目的に、物質の構造と性質、物質の状態変化や反応を理解することを本講義の目標とする。本講義では、自然科学の一分野である化学における基本的な現象や概念・物質、例えば、原子・分子、水と水溶液、酸とアルカリ、酸化と還元などを生体や生体分子を題材として説明する。	
	美術	日々の保育現場において求められる美術の基礎的な知識・技能を修得する。またそれによって自らの感性や想像力、情操を養う。具体的な製作を通じた「自己表現」の体験によって、表現を行う子どもの心理的側面への共感性を養う。各回演習課題の意図を理解し、十分に試行錯誤を重ねて課題に取り組み、美術に対する視野を広げ深く考察する。	
	日本文学Ⅰ	立場を入れ替えての他者理解や自己の客観視は、物語の登場人物の言動を通して会得される部分が少なくない。この講義では、人物造型（フラット・キャラクターとラウンド・キャラクター）・語り手の役割・トポス（場）などの、小説の理解につながる着眼方法の修得を目的とする。社会や人間の理解に有益な小説を読むことで、恋愛を含む人間関係の中での生きる知恵、職業人としての資質を、表現世界を楽しみながら身につけることを到達目標とする。	
	日本文学Ⅱ	「韻文」感覚があると、適切な短い少ない言葉で人を感銘させ、人の心を良い方へ動かすことが可能になる。他者を励ます際や厳しい覚悟を持たせる際に有益である。日本の近現代の詩・短歌・俳句の名作に親しむことで、人の心情や季節の推移・自然詠の魅力を理解すれば、たとえば行分け散文と「詩」の違いが見分ける能力がつく。「韻文」が散文と異なる原理で成り立つ存在である旨を学習し、どんな作品が韻文として優れているか、理解できるようになることを到達目標とする。	
	自然地理	自然地理学を構成する気候・地形・水文・生物の各分野について、その基礎的な事項を理解し、日本や世界の自然環境に関する理解を深める。気候・地形・水文・生物の各分野について、その基礎的な知識を取得するとともに、自然環境と人間社会の関係性について思考できるようになることを目標とする。	
	地誌	金沢・石川・北陸の地域性を例に、自然と社会の関係性を読み解く視点を理解する。自然環境と人間社会の関係性について理解し、自分自身の生活や将来と関連付けて思考できるようになることを目標とする。	
	白山市の自然と文化	本学のある白山市は、海岸部から海拔2702mの白山の山頂にいたる起伏に富んだ地形からなっており、豊かな自然環境に恵まれ、その中に暮らす人々の関わりによって、様々な歴史・文化・産業がはぐくまれてきた。白山市では地域資源を保全し、教育や地域振興につなげていくため、「白山手取川ジオパーク」活動を推進している。本講義ではこうした地元白山市の自然と文化、産業について学ぶ。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(社会福祉学部子ども福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 題 科 目	日本史Ⅰ	日本の古代・中世の歴史の流れについて概説する。縄文文化の特異性や本格的な稲作農業の始まりから統一国家が形成されるまで、そして東アジア情勢の変動と大化改新の関連性を学ぶ。日本の律令制度はなぜ短期間で崩壊するのか、やがて中央では日本型政治形態の先駆といえる摂関政治が成立し、地方では武士と呼ばれる階層が誕生する。関東武士団の独立運動に端を発する鎌倉幕府の成立と惣領制支配の限界による鎌倉幕府の崩壊、やがて南北朝の内乱を経て室町幕府が成立するまでを学んでいく。	
	日本史Ⅱ	日本の近世の歴史の流れについて概説する。中世的支配から脱却し新たな支配方式を模索する戦国大名たち、織豊政権の誕生、なぜ徳川幕府は長期安定政権たり得たのかを学ぶ。また、貨幣経済の発展による幕藩体制の矛盾の拡大、外国船の来航による国際的緊張の高まりという時代背景の中で、特に田沼意次・阿部正弘・井伊直弼をピックアップし再評価する。薩摩藩の老獪な外交政策と徳川幕府の崩壊や廃藩置県によって近代国家の基礎が成立するまでを学んでいく。	
	日本語表現	敬語・手紙・電話応対など社会常識の学習や、文章作成を通して児童養護施設をはじめとする福祉関係職員としての素養の涵養を行う。社会人としての、話し方・書き方などの基礎的な日本語による表現方法の修得を到達目標とする。	
	文書処理演習	現代人にとってコンピュータ操作は必須の技能となったが、その中でも最も基礎となるのが、文書作成技能—すなわちワープロ機能の修得である。この授業では、Word 2010を利用したさまざまな文書作成技能について学ぶ。Word 2010の基礎及び応用技能の修得を目標とする。	
	哲学	ケアの現場における営みを、哲学的視野から考察する。本講義における哲学的な立場を確認したうえで、ケアにおける道徳的行為について考え、ケアという行為を通して形成される徳を見つめることを通して、ケアという営みの目的を見据えるところへと向かうことができるよう、本講義を進める。ケアという行為の意味を、適切に理解し得ているようになることを目標とする。	
	宗教学	仏教や神道、キリスト教、イスラム教の教義の基本について学び、今日的諸問題に関わらせながら授業を展開する。宗教の意味・機能、仏教の独自性、キリスト教・イスラム教の概要を理解するとともに、仏教と日本人、今日的諸問題との関わりについて考えることができることを目標とする。	
	東洋史	東アジア諸国交流・共生、各民族の文化衝突・融合の歴史に注目し、近年発見された考古学資料を講義に組み込んで、東洋の歴史と文化伝統に対する理解を一層深めさせる。東アジアにおける農耕文明と遊牧文明の起源、稲作文化の伝播、殷・周都市国家から秦・漢統一帝国への転換、漢王朝の西域経営と朝鮮半島の支配、五胡十六国時代の民族大移動、隋・唐律令国家の成立、朝鮮半島三国の興亡、モンゴル帝国のユーラシア大陸征服戦争、明王朝の北虜南倭の危機、アヘン戦争と中華帝国の崩壊など歴史における画期的な出来事を分析し、歴史の流れと全体像を把握しながら講義を進める。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(社会福祉学部子ども福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 題 科 目	西洋史	西洋の古代から中世の歴史を概観しながら、西洋の社会や文化、今日の世界情勢への理解を深めていく。西洋の歴史の流れを把握し、歴史上のおもな出来事を正確に理解できることを目標とする。	
	人文地理	地理学の諸分野（都市地理学、経済地理学、社会地理学、文化地理学など）の基礎となる概念や理論について、地理的事象の事例を踏まえ、解説する。また、具体的に地域がどのように変貌してきたのかなどについて、主題に基づいた地図の作成や考察を通して、空間や地域の成立要件などについて学ぶ。人文地理学の基本的な概念や理論が理解でき、現代の地域の諸問題に関する理解を深め、空間的な視点からその要因等を考察できることを目標とする。	
	器楽Ⅰ	歌の伴奏で思いつくのはピアノである。そこでピアノ奏法と子どもの歌を中心に、ピアノの基礎的技能（コード伴奏の知識・技能）を学んでいく。また、意欲的な学習法となる個人の技量を考慮した個別指導の徹底を図り、保育に必要な独奏力・伴奏力を身につける。	
	器楽Ⅱ	独奏力は元より、子どもの歌唱に合わせた伴奏力を伸ばすことに重点をおく。さらに、子どもの動きに合わせたピアノ伴奏ができるようになること、歌唱の技能も習得していくことを到達目標とする。また、そのために必要な読譜力の向上を目指し、ソルフェージュを徹底する。	
	器楽Ⅲ	「器楽Ⅰ・Ⅱ」の土台を基に、更なるピアノ伴奏能力の向上を図る。ソルフェージュによる読譜力の向上から、新曲視奏力や新曲視唱力の技術の向上を図ると共に、より多くの子どもの歌を知ること、曲を暗譜で演奏（メロディ+伴奏）しつつ、弾き歌いができる力を修得する。	
	器楽Ⅳ	保育士資格取得に必要な器楽の集大成と位置づける。ソルフェージュの徹底と新曲視奏・視唱力の向上、独奏力と伴奏力、弾き歌いの技術の更なる向上を図り、保育現場に即応できるように、人前での演奏発表なども通して総合的な実践力を身につける。	
	音楽	これまでに学んできた「音楽」を振り返り、再びリズム・音・拍子などの基礎を学んでいく。主に1・2・3拍子の理解・表現、音符を正しく理解しリズム譜を書く、メロディを読譜・歌う、歌詞を理解して説明することができるなどの知識・技能を、学生それぞれが身体を使いながら表現できるようになり、保育者として幼児の感性を育む「音楽」としての手段・方法を習得する。	



## 授 業 科 目 の 概 要

(社会福祉学部子ども福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 題 科 目	図画工作 I	保育内容を理解し、教材として自然にある素材や、粘土、絵の具、新聞等を用い、製作技能（壁面装飾、視覚教材など）を実技を通して修得していく。また、あそびを通じた製作活動を行うことで子どもの経験や様々な表現活動と造形表現を遊びの展開と子どもの発達と造形表現に関する知識や技術を修得する。	
	図画工作 II	保育の中で子どもたち自身に体験させたいさまざまな工作の実技演習（折り紙、紙工作、染色など）、その文化的背景なども合わせて学ぶ。また、子どもの発達年齢や実態に即した具体的な活動のプラン作成とロールプレイによる演習を行い、子どもたちへ伝えることの意義も考察する。また、一つの技法から新たに発想する応用力も養っていく。	
	幼児体育 I	保育内容を理解し、ボール・縄遊び・マット・平均台・跳び箱・リング・棒・風船等の教材遊具を用いてその特性や活用方法とともに、子どもの経験や様々な表現活動と身体表現とを結びつけ、子どもの発達に即した遊びの展開に関する知識と技術を身につける。また、遊具の安全管理方法についても学んでいく。	
	幼児体育 II	「幼児体育 I」で修得した幼児の身体運動に関する基本的な知識・技能、安全管理方法を基礎とし、レベルアップされた指導案の立案と模擬保育を数多く実施して保育実践に必要な知識・技能の更なる向上を図る。また、トランポリンについても知識・技能・安全管理方法を習得していく。	
	子どもと文化	保育内容を理解し、子ども自らが児童文化財等に親しむ経験を通して、子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財等とを結びつける遊びの展開を学ぶ。また、子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング等に関する知識と技術を修得する。	
	子どもと生活	子どもが心身ともに健康な生活を送り、その健全な発育を保障することを目標に、基本的な生活習慣、健康と安全についての基本を学習する。その上で、保育における環境、衛生管理並びに安全管理について、施設等における健康・安全の実施体制を学ぶ。	
	法学（憲法） I	法学一般及び憲法の基礎知識と理論の実用的修得を主要な目的とする。概要として、法学一般は法の目的、法規範、法の分類と体系等、憲法は日本国憲法の特徴と基本原理、基本的人権の特質と分類、最後に統治機構の問題として三権各々の内容と特色等基礎知識と理論を講義する。そして、社会及び日常生活における法の作用や役割についても言及し、福祉関係職員が常識や教養として知っておくべき法律の重要性を理解していく。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(社会福祉学部子ども福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主 題 科 目	法学Ⅱ	法学の学習において、憲法と同様に重要である民法と行政法の基礎知識と理論の修得を主な目標とし、日常生活や職業と民法及び行政法との関わりを実際の事例を紹介しながら講義する。内容としては一般教養的な法律知識と医療従事者として必要とされる専門的な法律知識を織り交ぜた構成とする。具体的には、民法では財産法の特色や契約法及び不法行為法の基礎知識や理論、宗教法の特色を、行政法では行政活動、行政救済、行政手続や地方自治等の基礎知識や理論を講義する。	
	政治学	主要な政治アクターや制度に関する基本的な知識を整理し、戦後政治の国政、外交、経済政策、今日の政治とメディア、世論、政治コミュニケーションを取り上げる。現代日本政治に関する基本的な知識の修得に加え、知りたい「政治情報」が本当に届けられているかについて興味をもち、自分で考えるようになることで、政治的関心を高めることを目標とする。	
	経済学Ⅰ	アダム・スミス、マルクス、ケインズ、ハイエク、サミュエルソン、ガルブレイスなど、現実の日本経済を理解するための経済（ミクロ経済学・マクロ経済学）の基礎理論、経済学史・経済政策を学習する。	
	経済学Ⅱ	基礎理論を踏まえて、現実の日本経済や国際経済を理解し分析用具の活用にも触れる。他方、今日的課題として産業構造と企業再生・組織改革の理解、流通・インターネット・福祉・環境の経済と地方自治の理解を図る。	
	統計学	調査などによって得られたデータは、適切にまとめられ、提示されなければならない。本講義では、データの集計方法と、基本的な推定、および検定手法について学習する。標本調査によって得られたデータから、母集合の統計量を推定できるようになること、また、統計的検定方法を修得し、調査で得られたデータを統計的に表現できるようになることを目標とする。	
	教養ゼミⅠ	教養とは何かを考えグループワークを行い、自己覚知と他者理解力を高める。自己分析することで、自己覚知と他者理解ができるようになる、また価値観を共有、共感することで視野を広げることができるようになる、そしてグループワークを行うことで、コミュニケーションスキルを身につけることを目標とする。	
	教養ゼミⅡ	教養とは何かを考えグループワークを行い、プレゼンテーション能力を養う。高齢者と障害者の実態を多面的に捉えることができるようになる、またグループワークを行うことで、コミュニケーションスキルを身につける、そして模擬授業を行うことで、プレゼンテーション能力を養うことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(社会福祉学部子ども福祉学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
主題科目	教養ゼミⅢ	このゼミは、原則、日本語不使用とし英語のみで授業を行なう。受講生は、世界の地理、文化、習慣について英語で考え、表現できるようになることを目指す。	
専門基本科目	社会福祉概論Ⅰ	社会福祉の理念と意義をはじめ、社会福祉の主体、対象、歴史的展開について扱い、さらに社会福祉援助の具体的な形態と方法および社会福祉援助活動における専門性と倫理などについて学んでいく。	
	社会福祉概論Ⅱ	社会福祉関係法制と実施体制および財政全体の概要をはじめ、社会福祉の分野と社会福祉士、介護福祉士および保育士の専門性と役割について、さらに、社会福祉をめぐる日本および諸外国の動向と課題について学んでいく。	
	高齢者福祉論	高齢者福祉論では、まず今日の高齢者がおかれている全体的状況と、高齢者の生活ニーズ及び高齢社会が抱える問題について概観する。その上で、わが国の高齢者保健福祉制度の変遷過程と現状及び課題を明らかにしていく。また現在の高齢者保健福祉制度の中で重要な位置を占めている介護保険制度については、成立の意義及び制度の仕組みと、そのサービス内容、専門職の役割等について学んでいく。特に介護保険制度における社会福祉専門職を含む保健医療専門職の連携のあり方について言及する。	
	障害者福祉論	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む。）について知り、現代社会における障害福祉の理念と意義について理解する。障害福祉史から施策の変遷及び動向を理解するとともに障害者自立支援法の概念とサービス体系・諸制度を理解する。障害者福祉及び関連分野の専門性及び連携のあり方を理解する。障害者の実態を解説し医療相談援助活動、介護サービス活動の具体的事例を解説し医療援助・福祉援助の連携支援を理解する。	
	児童・家庭福祉論	発達途上にある人間主体としての児童は、また環境に影響されやすく傷つきやすい存在である。その児童の健全育成・自己実現を保障するために、私たちはいかに考え、どのように活動すべきかを追求していく。児童が置かれている状況・課題を一つひとつ取り上げるなかで、そのことを自分自身の問題として思考する態度を作りあげることが目標とする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(社会福祉学部子ども福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 基本 科目	介護福祉論Ⅰ	介護福祉論は介護に必要な知識・技術・価値、倫理の基礎であるため、学ぶ範囲は幅広い。そこで、介護福祉論Ⅰでは、人間の生活、家庭生活における家族の役割、高齢者・障害者の生活の理解、障害者の生活の困難性や障害者の権利を考える。次に介護福祉の歴史と発展、社会的役割を理解する。その上で介護の対象者や関連領域との連携を学び、介護の具体的な業務内容を理解する。また、諸外国における介護福祉の現状と課題について考える機会とする。介護福祉に必要な対人援助法の技法を紹介し実践的な学びにつなげる。	
	社会福祉史	現在の社会福祉を科学的に理解するためには、現在に至る社会福祉の発展プロセスとその内容について把握する必要がある。また、わが国や海外の社会福祉の発展過程とその内容を学習する中で、社会福祉の過去を学び現在の社会福祉のあり方を考察し、将来の課題を探求する。	
	介護福祉論Ⅱ	「介護福祉論Ⅱ」では、日常生活で必要となる具体的支援技術の知識・技術・倫理を学ぶ。重ねて倫理については、各職能団体の倫理綱領があるので連携する専門職の考え方も紹介したい。介護の対象者が生活している場所により、活動の場は拡大されるが、より良い生活の維持を目指して支援する視点も考えさせたい。その為には、生活を支えるサービスと提供を結びつけ支援する手法も紹介したい。支援をするには支援する側の健康と安全も重要であり自身の安全と感染予防に留意することも学ぶ。併せて対象者に安全に技術を提供する技術を考える学びとしたい。	
	心理学Ⅰ	行動の科学としての心理学について、どのような研究が行われ、どのようなことが明らかにされてきたかについて学んでいく。認知、記憶、学習、コミュニケーション、集団、生理心理、比較心理等の各研究分野の成果について、簡単な心理テスト・実験等を交えて学び、心理学に関する基礎的理解を深める。そして、心理学を生活の中で生かす方法についても考えていく。	
	心理学Ⅱ	「心理学Ⅰ」を踏まえ、行動の科学としての心理学について、どのような研究が行われ、どのようなことが明らかにされてきたかについて更に深く学んでいく。学習と記憶、感情と動機づけ、臨床について簡単な心理テスト・実験等を交えて学び、心理学の各領域について理解できるようになること、また、日々の人間行動を心理学的観点から理解できるようになることを目標とする。	
	社会学	私たちは、「複雑な社会」に生きている。そこでは、「私」の行為が地球の裏側の人々に影響を与える可能性をもつ一方、「私」の元には相反した情報や多様な価値観が流れ込む。現在クローズアップされている様々な事象や社会問題を題材にとりあげて、そうした社会に生きる一員として、現代社会の特質とその変化について考えるための基本的な概念を学ぶ。それと同時に、個人と社会を重層的に捉えることのできる社会学的視点を身につける。	
	社会保障論Ⅰ	社会保障の総論部分である、社会保障の理念や機能、体系について学ぶ。また、社会保障の歴史や、諸外国の社会保障制度についても学ぶ。わが国の社会保障制度を理解し説明できるようになること、ソーシャルワーク実践において社会保障制度の理解を活用できるようになること、現在のわが国の社会保障に関する課題について考察できるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(社会福祉学部子ども福祉学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基本科目	社会保障論Ⅱ	社会保障論の各論部分である、社会保険と、公的扶助や社会手当、その他の社会福祉制度について学ぶ。具体的には、年金・医療・労働・介護の社会保険制度、生活保護制度を中心とした公的扶助制度、児童・高齢者・障害福祉に関する社会福祉制度について学ぶ。わが国の社会保険・社会福祉制度を理解し説明できるようになること、ソーシャルワーク実践においてこれらの制度の理解を活用できるようになること、現在のわが国の社会保障に関する課題について考察できるようになることを目標とする。	
	公的扶助論	公的扶助とは何か、その考え方や制度の仕組みについて学ぶ。具体的には、公的扶助の役割や機能、生活保護制度を中心とする各種制度の仕組みや動向などについて学ぶ。貧困・低所得者問題について、その背景や対処方法、及びこの分野における社会福祉専門職の役割や他職種との連携についての知識を修得し、公的扶助のあり方や制度の問題点などについて考察できるようになることを目標とする。	
	地域福祉論Ⅰ	身近な地域を例にして、地域を捉えるための視点や枠組みについて学ぶ。また、現代社会において地域が抱える課題を例にとり、当事者(地域住民)として行動していくために必要な課題の考察と知識の修得を図る。授業内で実施するグループワークにも積極的に参加することが求められる。地域を捉える上で必要な概念や知識を修得すること、また、地域が抱える課題について理解し、課題解決のための対応策について自分なりの考えを持ち、それを第三者に説明できることを目標とする。	
	地域福祉論Ⅱ	地域福祉の価値・原則や理論的枠組み、歴史、地域福祉に関係する組織、専門職、制度について、実践事例や法律の条文と照らし合わせながら講義を行う。地域福祉の歴史や実践事例を踏まえ、地域を意識した社会福祉実践が具体的にイメージできるようになること、また、地域福祉に関係する組織、専門職、制度について概要を理解し説明できるようになることを目標とする。	
	社会福祉施設経営論	社会福祉事業のサービス提供は、長く措置制度のもと「運営」という概念で行われてきた。しかし、今日、契約制度とともに多様な事業体の参入により他の事業体との連携や競争という「経営」の必要性が高まっている。安定し継続した事業展開と質の良いサービスを提供できる事業体として、その財源や人材確保への戦略的な経営が求められていることを学ぶ。福祉サービスにかかる組織や団体、福祉サービスの組織と経営にかかる基礎理論、福祉サービスの経営と管理運営について理解することを目標とする。	
	社会調査	社会調査とは、社会における問題を解決するためにデータを集め、それを使って社会について考えるための方法である。この授業では社会調査に関する基本的な考え方を知るとともにその進め方(調査内容の決定、調査対象の決定、調査の実施方法、調査結果の分析方法とまとめ方)を学ぶ。社会調査の意義と目的及び方法、統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報、そして量的調査の方法及び質的調査の方法について理解・修得することを目標とする。	
	福祉行財政と福祉計画	社会福祉を実現する上での行政の役割、制度運用の実際、財源、法的根拠について、資料データや法律の条文と照らし合わせながら講義を行う。国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、行財政の状況、社会福祉行政に関わる機関や専門職について概要を理解し説明できるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(社会福祉学部子ども福祉学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基本科目	医療福祉論	医療保険制度や診療報酬、保健医療サービス、保健医療サービスにおける専門職の役割や連携について、及び医療ソーシャルワーカーについて学んでいく。医療保険制度及び診療報酬制度、保健医療サービス及び保健医療サービスにおける専門職の役割や連携、医療ソーシャルワーカーについて理解することを目標とする。	
	就労支援	将来、職業自立を目指している障害者を地域でどのように支援していくのかについて、具体的な支援・サービス内容をわかりやすく解説するとともに、就労支援における法制度について概説する。就労支援に関する社会福祉からの相談援助活動のアプローチと各種の就労支援制度、就労支援サービスの実施体制と組織および団体・専門職の役割、そして就労支援分野のハローワーク・職業リハビリテーション・障害者福祉施策等における機関連携について理解することを目標とする。	
	権利擁護と成年後見	ソーシャルワーカーが権利擁護活動を行う際に求められる法的知識や、法との関わりについて学ぶ。具体的には、相談援助活動と憲法・民法・行政法・福祉関連法との関係や、成年後見及び関連制度の背景・趣旨・仕組み・運用の実際・課題などを学ぶ。また、権利擁護活動の必要性や、各種機関及び他の専門職との連携方法などについても学習する。ソーシャルワーカーに求められる法的スキルを修得した上で、「権利擁護」とは何か、その課題やあり方について考察できるようになることを目標とする。	
	更生保護	更生保護とは、犯罪・非行を犯した人を支援することによって、健全な社会人として更生させ、再犯・再非行を防ぐ制度である。更生保護制度の概要や基本的な用語を理解した上で、その実態、課題、事例等の紹介も交えてわかりやすく解説する。更生保護に関する社会福祉からの相談援助活動において重要となる更生保護制度、また保護観察官、保護司、更生保護施設、民間協力者等の担い手と役割、そして裁判所、矯正施設、福祉事務所等における関係機関と団体との連携について理解することを目標とする。	
専門展開科目	ソーシャルワーク論Ⅰ	ソーシャルワーク実践の基盤と、ソーシャルワーク専門職であるソーシャルワーカーの実践について講義を行う。「ソーシャルワーク論Ⅰ」では、ソーシャルワークの概念と範囲、ソーシャルワークの形成過程、ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲、社会福祉士の意義と役割の4つの事項を取り扱う。ソーシャルワークの概念とその範囲が理解し説明できること、ソーシャルワークの形成過程が理解できること、ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲が理解できること、そして社会福祉士資格の意義と役割について理解できることを目標とする。	
	ソーシャルワーク論Ⅱ	ソーシャルワーク実践の基盤と、ソーシャルワーク専門職であるソーシャルワーカーの実践について講義を行う。「ソーシャルワーク論Ⅱ」では、ソーシャルワークの価値・理念、ソーシャルワークにおける権利擁護の意義、ソーシャルワーカーの専門職倫理と倫理的ジレンマ、総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容の4つの事項を取り扱う。ソーシャルワークの価値・理念について理解し説明できること、ソーシャルワークにおける権利擁護の意義について理解し説明できること、ソーシャルワーカーの専門職倫理と倫理的ジレンマについて理解できること、総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解できることを目標とする。	
	ソーシャルワーク論Ⅲ	ソーシャルワークの概念及び価値、範囲、基本的技法を修得するため、テキストに添いながら理論や技術を学習していく。ソーシャルワークの概念と範囲について把握できること、またその主たる担い手である「社会福祉士」の果たすべき役割と意義について理解し、相談援助の構造とその機能について、総合的・包括的に理解できることを目標とする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(社会福祉学部子ども福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 展開 科目	ソーシャルワーク論Ⅳ	ソーシャルワークの基本的技法を修得するため、テキストを用い具体的事例に添いながら、その展開過程や具体的技術について学習していく。ソーシャルワークの展開過程について把握できること、また介護保険法や障害者総合支援法を理解する「社会福祉士」の果たすべき役割と意義、相談援助のための各種技法について、具体的に理解できることを目標とする。	
	ソーシャルワーク論Ⅴ	相談援助における対象、ケースマネジメント、グループを活用した援助、コーディネーションとネットワーキング、相談援助における社会資源の活用・調整・開発について、基本となる概念や理論、技術を学ぶ。相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解すること、また介護保険制度や障害者自立支援制度による各種サービス計画作成に関する知識に配慮しつつ、相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解することを目標とする。	
	ソーシャルワーク論Ⅵ	さまざまな実践モデルとアプローチ、スーパービジョンとコンサルテーションの技術、ケースカンファレンスの技術、相談援助における個人情報の保護、相談援助における情報通信技術の活用、事例研究・事例分析、相談援助の実際について、基本となる概念や理論、技術を学ぶ。相談援助におけるその対象とさまざまな実践モデルについて理解を深め、相談援助の実際について、権利擁護との関係性に配慮しつつ総合的に対応できる能力を修得し、加えて相談援助における事例分析の意義や方法について、理解し実践的能力を涵養する。	
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	ソーシャルワークや介護を必要とする者の理解や援助的關係、援助的コミュニケーションについて理解していき、利用者やその家族、あるいは他職種協働における基本的コミュニケーション能力を身につける。また、ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れ、ソーシャルワークの知識と技術について実践的に習得していく。	
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	ソーシャルワーク・介護における面接技術、ソーシャルワーク・介護におけるチームのコミュニケーションについて演習形式で学んでいく。「ソーシャルワーク演習Ⅰ」で学んだソーシャルワークの知識と技術について、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	具体的なソーシャルワークの事例を活用しての総合的かつ包括的な援助、地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用しての実技指導について演習形式で学んでいく。また、総合的かつ包括的なソーシャルワークとコミュニティに係るソーシャルワークについて実践的・体系的に理解することを目標とする。	
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	「ソーシャルワーク演習Ⅲ」を踏まえ、ソーシャルワーク実習の事例の提示、グループディスカッションなど演習形式で学んでいく。ソーシャルワークの知識と技術について個別的な体験を一般化し、ソーシャルワーク実習の事例の提示・グループディスカッション等を通して、実践的な知識と技術を修得することを目標とする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(社会福祉学部子ども福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 展開 科目	ソーシャルワーク演習Ⅴ	「ソーシャルワーク演習Ⅳ」を踏まえ、ソーシャルワーク実習の事例の提示、グループディスカッションなどの演習を更に重ねていき、様々なケースについて理解を深めていく。それらの演習を通して、更に実践的な知識と技術を修得していくことを目標とする。	
	相談援助	相談援助の概要、方法、技法について理解し、その上で具体的展開について理解する。さらに、保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析について解説し、ロールプレイなどを通して理解を含める。	
	家庭支援論	現代社会における家庭の意義とその機能、社会的状況を把握し、保育所や児童福祉施設等の保育士等が行う子育て家庭の支援について理解する。また、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について学ぶ。	
	保育者論	保育者の役割と倫理について学ぶ。その上で、保育士の制度的な位置付けを理解し、その専門性について考察する。また、実際の保育現場の中でどのように、「保育の協働」が行われているか、保護者や他の専門機関、地域社会、家庭保育者との関わりについて考察し、求められる保育者の専門的成長について考察する。	
	幼児教育者論	幼稚園や認定こども園で教師達が実際に体験した事例や、現在の園での生活等について、具体的に紹介したり、親と教師との立場の違い、保育園や他の学校との相違等について考えながら、幼稚園の先生の役割について理解する。	
	幼児教育原理	教育の意義、目的及び児童福祉との関連性について学んでいくとともに、教育の基礎的概念、理論、歴史について理解し、教育に関する体系的知識の修得を目指す。また、教育制度と基本的な実践原理及び指導原理についても理解を深めていく。	
	保育内容総論	保育所保育指針及び幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の概要を理解し、保育内容の歴史の変遷を通して理解を深める。子どもやその集団の発達特性や発達過程を踏まえ、観察や観察や記録の観点を修得し、保育内容と子ども理解の関わりについて学ぶ。子どもの生活全体を通して、養護・教育が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて理解し、さらに保育の多様な展開について学んでいく。	



## 授 業 科 目 の 概 要

(社会福祉学部子ども福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 展開 科目	保育課程論	保育の計画と評価の基本について解説し、保育所における保育計画を保育所保育方針と幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の関連を踏まえ保育課程の編成と指導計画作成について事例等を通して具体的に理解する。さらに、その計画、実践、省察・評価、改善の過程について全体構造をとらえて理解する。	
	保育方法論	保育方法について、その理論と実際の方法をできるだけ具体的な実践例を取り上げながら理解していく。また、保育を深めるための視点を理解し、実践の現場から把握する力を養う。	
	保育原理 I	保育の意義・本質について解説する。明確な認識をもたせ、保育の場における歴史と類型について理解をしていく。そして、保育所や認定こども園における保育の原理と特徴、環境、類型について理解をしていく。また、発達過程区分における保育の内容についても学んでいく。	
	保育原理 II	「保育原理 I」で学んだことを踏まえ、現代の多様化・高度化する保育ニーズに対する専門性について理解していく。また、保育所や認定こども園における保育の健康と安全、家庭・地域との連携にも関連付けて学んでいき、相談援助の基本的原理と実践についても理解を深めていく。	
	社会的養護	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について解説する。児童福祉との関連性や児童の権利擁護について解説し、社会的養護の制度や実施体系について理解する。その上で、施設養護の実際を人権擁護についての解説を交え、自立支援を中心に多方面から考察する。さらに、社会的養護の現状と課題について考察する。	
	社会的養護内容	社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について触れ、施設養護及び他の社会的養護について学ぶ。具体的事例を通して、支援計画と内容を分析し、関連するソーシャルワークの方法と技術について理解する。さらに、社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解を深める。	
	発達心理学 I	人の成長・発達を個人と環境の相互作用の下に捉え、年齢に伴う発達の変化の特徴とそのメカニズムを代表的な発達理論を踏まえて論じ、人の発達過程と発達規定要因に関して理解を深める。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(社会福祉学部子ども福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 展開 科目	発達心理学Ⅱ	「発達心理学Ⅰ」を踏まえ、人の成長・発達を個人と周囲の人々との社会関係の成立と発展から捉えて愛着・パーソナリティ・社会性の発達を中心にその発達過程と特徴を論じ、あわせて家庭・社会・文化に基づく環境要因の発達における役割を考察する。また、保育所保育指針の発達項目を理解する。	
	保育の心理学	「発達心理学Ⅰ」の講義内容を踏まえ、子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。具体的には、保育実践例や保育の視聴覚映像などを手かかりとしながら、子どもの心身の状態や行動について把握する目を養う。また、生活や遊びを通して学ぶ経験や学習の過程を理解し、それを通して保育における発達援助について学んでいく。	
	幼児教育心理学	幼児は家庭や園における生活の中から対人相互交渉を通じてインフォーマルに知識・技能を獲得するが、こうした教育的営みに関わる学習・記憶・知能・動機付け・個人差・指導法と評価について概説し、幼児を育む教育的営みの本質を学ぶ。また、保育における教育的要素に関する相談に対応できる能力の養成を図る。	
	臨床心理学Ⅰ	臨床心理学は、人間の心の問題について、心理学的人間理解と心理学的援助技法を用いて、対象者の心理的適応や発達を促進し、自己実現を支援していくという実践的な学問である。「臨床心理学Ⅰ」では、基本理論を概説し、心理的な問題を理解するためのアセスメントについて学習する。アセスメントのためのデータの収集技法と分析技法について学び、発達段階の違いや被った障害によって異なる心理的問題について理解を深めることを目標とする。	
	臨床心理学Ⅱ	「臨床心理学Ⅰ」で学んだことを基礎として、心理的問題に介入する理論モデルと介入技法について学習する。臨床心理学は多くの理論的立場と技法から成り立っている。その中のおもな理論について概説し、心理学的人間理解の方法について理解を深める。心理的援助のための個人療法および集団療法の介入技法について基礎的な学習をし、さらにコミュニティにおける相談活動の実際についても学ぶ。	
	人格心理学	人格心理学の研究領域は、人格形成論、人格構造論および人格査定論から成る。人格形成論では、出生前条件、物理的社会的環境、親の養育態度等の人格の形成要因の研究を概観し、人格構造論では、類型論や特性論さらに反特性論を初めとした人格理論の諸相について述べ、人格査定論では人格を測定するという行為のもつ心理学的意味を中心に人格を測るとはどのようなことかを検討する。	
	カウンセリングⅠ	カウンセリングの独自性と存在意義およびカウンセラーの専門性と責任性について、その概要を学んでいく。主にカウンセリング心理学の発達史、独自性、多様化するカウンセラーの機能と働き方、基本的態度と能力について理解を深めていき、また、カウンセリングの技法についても理解していく。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(社会福祉学部子ども福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 展 開 科 目	カウンセリングⅡ	「カウンセリングⅠ」で学んだことを踏まえ、カウンセリング技能の更なる理解と基本的傾聴技法（かかわり技法、応答技法、積極技法）を講義、グループ演習等を通して体験する。また、カウンセリングを通して信頼関係を築いていくための方法、学んだことを日常場面で意識的に用いることができるよう学んでいく。	
	幼児理解と教育相談	子ども一人ひとりを大切にする教育のために、幼稚園教諭・保育士にとって必要な基礎理論および相談・援助の方法について講義する。幼児の特性の理解を深め、幼児期の発達、幼児への発達支援、保護者への援助・対応、教育相談活動と専門家との連携について事例を取り上げながら理解していく。	
	保育相談支援	保育相談支援の意義と原則について触れ、保護者支援の基本を理解する。保育相談支援の実際について、その内容と方法を解説し、実際の保育所等児童福祉施設における、保護者相談支援の実際について理解する。	
	医学一般	日常生活の中で一般に見られる各種疾患についての理解等、福祉場面で求められる、基本的な医学的知識を修得する。ここでは、人体の基本的な構造や機能、臨床医学の概要、現代社会の代表的な疾患、医学的リハビリテーションの概要について講義し、その内容を理解することを目標とする。	
	リハビリテーション論	リハビリテーションの概念、方法、歴史などについて学習するとともに、老人、障害者のニーズに照らして、基本的な実践上の知識・技術を修得する。また、日常生活の自立支援、社会生活能力の維持拡大への援助について理解することを目標とする。	
	公衆衛生学	従来の衛生学に加え、公衆衛生学が昭和20年代に登場し、顕著な経済発展とあいまって、国民の健康状態の改善に役立つ学問として、わが国の平均寿命を世界のトップに上げるために貢献してきたのは事実である。「病気を治す」時代から「病気を予防する」時代になった今日、さらにこの学問の重要性が増してきているので、公衆衛生学とは何かを基礎的な面からわかりやすく論じていく。	
	生理学	生理学は人体のいろいろな働きについて学ぶ学問である。この授業では、広い生理学の分野から、われわれの人体がいかに巧妙に作られ働いているかについて、生体機能の恒常性（ホメオスタシス）の維持という観点から学んでいく。さらに、ホメオスタシスの破綻により起きる各種障害、疾病のしくみについても学ぶ。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(社会福祉学部子ども福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 展開 科目	母子保健	健全な社会は健全な家族から始まる。子どもが健康で健全に育つには、その基盤である母親が心身ともに健康であるとともに、その家族もまた健康でなければならない。この科目では、母子の健康的な関わり的重要性を理解し、それを促進させるとともにその家族を含むヘルスニーズに対応できるための看護援助法を学ぶ。	
	子どもの保健 I	子どもの健康保持と成長、発達（身体発育・生理機能・運動機能・精神機能の発達）を保健、医療面から十分に理解していき、子どもの疾病と予防法及び適切な対応について講義する。更に、子どもの精神保健とその課題について解説する。	
	子どもの保健 II	「子どもと生活」、「子どもの保健 I」の講義内容を踏まえ、子どもの保健活動計画と評価、保健と環境、疾病の適切な対応、事故防止、安全管理について、具体的に学習する。さらに、現代社会における心の健康問題や地域保健活動について理解する。	
	障害児保育	障害がある子どもへの保育が一般化してきつつある現代保育者の必須の条件となる障害児保育を「基本的知識」、「保育の進め方」、「実践事例」、「保育演習」の四つの柱から構成して講義を進める。時に、子ども個々の発達評価から発達援助の方法を明らかにし、各種障害児に対する接し方等についても学んでいく。	
	障害児保育演習 I	障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児とその保育について理解する。様々な障害について理解し、子どもの理解や援助方法・環境構成等について学んでいく。障害児保育の実際について事例等を通して、保育計画を作成し、個別支援が必要な子どもへの適切な対応方法について理解を深める。	
	障害児保育演習 II	障害児への理解を深め、個別の指導の留意点について学んでいく。また、障害児保育の実践例からADLなどの具体的な保育支援をどのように行っていけば良いかなどを概説する。また、相談機関・地域支援機関の現状理解と障害児の家庭支援の具体的実践例を通じた学習を深め、現状と課題を考察していく。	
	生活支援技術 I	介護を必要とする人がどのような状態であっても、生きていることを実感でき、その人らしく生きるための生活環境づくりをすることで、生活の楽しさや生活の支障の解決についてともに分かち合うことができるよう、あらゆる介護場面において共通する基本的な介護の技術を修得する。介護サービスを提供する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用でいる基本的な介護の技術、自立支援の観点からの介護実践できる基本的な能力が修得できることを目標とする。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(社会福祉学部子ども福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 展開 科目	手話	聴覚障害の基礎知識、手話の基礎知識、聴覚障害の特性に応じた福祉に関する知識を修得する。聴覚障害について理解を深め、聴覚障害児・者のコミュニケーション(手話・読話・筆談)及び日常生活介護に必要な補助機器等の技術と知識を修得することを目標とする。	
	点字	主に点訳の講義・実践の学習を通して、視覚障害の概念(捉え方)の理解や、視覚障害者の歩行とガイドの仕方を体験することにより、視覚障害についての理解と援助技術を深める。視覚障害についての理解を深め、視覚障害者の歩行・コミュニケーション・日常生活の介護に必要な知識と技術の修得、特に点訳に関しては点字の簡単な文章が書ける程度の知識と技術、及び様々な点字を読むことができる知識の修得を目標とする。	
	保育内容(健康の指導Ⅰ)	小児の健全な成長、発達のためには、保育者が健康、安全に関する基礎知識をもち、かつ適切な環境づくりとわかりやすく伝える力をもつことが必要である。「保育内容(健康の指導Ⅰ)」では主として「健康」について発表、討論し、指導根拠となる正常な成長過程とメカニズムに理解を深め、幼児の健康概念を確立する。	
	保育内容(健康の指導Ⅱ)	「保育内容(健康の指導Ⅰ)」を踏まえ、「保育内容(健康の指導Ⅱ)」では主として小児の「安全」について発表、討論し、幼児期に獲得すべき生活習慣を理解し、健康につながる具体的な指導方法を学んでいく。また、生活環境の中で健康障害を予防できる要素を学び、環境整備も含めて健康に関する指導法を学んでいく。	
	保育内容(言葉の指導Ⅰ)	保育内容(言葉の指導Ⅰ)では、乳幼児期の言葉の発達を踏まえて、保育者の役割及び保育環境について考察していく。また、保育の中での言葉の指導として、劇的表現活動についても学習、実践することを通して、教材についての知識及びその活用法を理解していく。	
	保育内容(言葉の指導Ⅱ)	言葉の発達は、乳幼児期に著しく、この時期の言葉に関する教育は、その後の人格形成に大きく影響を与えるものである。保育内容(言葉の指導Ⅱ)では、乳幼児期の言葉の発達を踏まえながら、言葉遊びや手遊び、絵本の読み聞かせなどを通して、保育の実践力及び応用力を身につけていく。	
	保育内容(人間関係の指導Ⅰ)	幼児は多様な人間関係を通じて自他理解、社会関係や社会性を発達させる。保育内容(人間関係の指導Ⅰ)では、乳幼児期の子どもを取り巻く人間関係の現状と課題について学び、乳幼児期における「人とかかわる力」の育ちについて理解を深める。また、教材研究を通して、あそびの重要性を学ぶとともに、保育者に必要な協同性、実践力を学んでいく。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(社会福祉学部子ども福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 展 開 科 目	保育内容（人間関係の指導Ⅱ）	保育内容（人間関係の指導Ⅱ）では、乳幼児期の「人とかかわる力」を支える保育者の役割および基本姿勢、環境構成について理解を深め、また、保育内容（人間関係の指導Ⅰ）での教材への認識を更に深め、保育実践に役立てる力を身につけていく。	
	保育内容（環境の指導）	保育内容（環境の指導）では、社会の中で人間として生活していくための基礎的能力を養うため、乳幼児の心身の健康や発達における環境－自然、社会、生活－の影響について理解すると共に、乳幼児にとって望ましい環境条件について考察し、理解を深めていく。	
	保育内容（音楽表現の指導Ⅰ）	保育内容（音楽表現の指導Ⅰ）では、「遊び」そのものが子どもの生活であることを踏まえ、一人遊び・複数人の遊びの中に音楽という手段を用いながら身近なものに対する感情の表現、保育者は人的環境という存在であることを学んでいく。	
	保育内容（音楽表現の指導Ⅱ）	保育内容（音楽表現の指導Ⅱ）では、感性豊かな保育者を目指し、子どもの年齢別発達を捉え、成長する姿を視野に入れた簡易楽器演奏・歌唱・リトミックなどの実践・表現方法を学んでいく。また、身の回りにある物すべてを利用して「遊び」に繋げられるよう相違工夫する力を身につけていく。	
	保育内容（美術表現の指導Ⅰ）	保育内容（美術表現の指導Ⅰ）では、子どもの造形表現について発達の基礎を学んでいく。また、表現行為を心理学的知見からの理解し、保育・福祉の場での美術表現の意義を学んでいく。更に保育現場における造形表現活動の具体的方法を身につけていく。	
	保育内容（美術表現の指導Ⅱ）	保育内容（美術表現の指導Ⅱ）では、生活における子どもの「表現」の姿を理解し、どのように支えるのかを考える保育者としての資質を養っていく。また、子どもの造形活動、あそびを文化的背景に照らして総合的に理解し、活動の対象となる子どもの年齢や実態に即した具体的な活動を実践し、現場に対応できる力を身につけていく。	
	子どもの食と栄養Ⅰ	健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学び、特に乳幼児期に必要な栄養素と適量について食品に結びつけて理解を深めていく。また、小児の栄養上の問題点や献立作成など実践面についても学んでいく。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(社会福祉学部子ども福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 展開 科目	子どもの食と栄養Ⅱ	子どもの発達に不可欠な、食育の基本とその内容を学ぶ。また、食育のための環境を保護者への支援や地域社会との関連を含め学ぶ。また、ごく一般的な家庭から児童福祉施設における食生活の現状と課題について学び、アレルギーや障害のある子ども等特別な配慮が必要な子どもの食と栄養についても学ぶ。	
	乳児保育Ⅰ	乳児保育の理念や歴史を学んだ上で乳児保育の現状について理解を深め、社会状況を踏まえながらその意義を明確にしていく。特に3歳未満児の発育・発達について学び、この時期の健やかな成長を支える生活と遊びや乳児の育ちに添った保育の援助のあり方を学んでいく。	
	乳児保育Ⅱ	「乳児保育Ⅰ」で学んだことを基にし、乳児保育の計画における環境構成や観察・記録等について学び、保育の内容・方法を理解していく。また、乳児の保育に携わる保育士の役割と専門性についても学び、乳児保育の現状と課題について考察する。	
	保育実習指導Ⅰ-A	保育実習の意義・目的を理解し、実習内容の理解と課題を明確にする。保育所における子どもの人権と最善の利益の考慮やプライバシー保護、守秘義務、実習計画、実践、観察、記録、評価の方法等実習前に必要な事項を修得する。実習後は、事後指導を通して、実習総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。	
	保育実習指導Ⅰ-B	保育実習の意義・目的を理解し、実習内容の理解と課題を明確にする。保育所、認定こども園以外の児童福祉施設における子どもの人権と最善の利益の考慮やプライバシー保護、守秘義務、実習計画、実践、観察、記録、評価の方法等実習前に必要な事項を修得する。実習後は、事後指導を通して、実習総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。	
	保育実習Ⅰ-A	実習園の沿革や保育の一日の流れを知り、保育計画を把握し、自ら指導計画を立案実践する。また保育者の役割を知り、観察や関わり・気付きを記録に残すことで子ども理解を深め、理論と実践の結び付きを図る。	
	保育実習Ⅰ-B	実習施設を理解し、共に生きるという姿勢から援助技術を修得する。また生活と権利を守り、共存共生的な技術を担うという観点から、職員の具体的な役割、業務内容、勤務体制を理解する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(社会福祉学部子ども福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門展開科目	保育実習指導Ⅱ	保育実習を通して、保育所や認定こども園の役割や機能について理解すると共に子どもの観察や関わりの視点を明確にする。「保育実習Ⅰ」及び「保育実習指導Ⅰ」、その他既習の科目をベースに子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶと共に、保育士の業務内容や職業倫理について具体的実践に結びつけ理解する。事後指導の中では、保育士としての自己の課題も明確にする。	
	保育実習Ⅱ	個別的・集団の特徴を観察し、子ども理解を更に深める。特に子どもの遊ぶ姿から興味関心、発達の個人差について考え保育観の確立に繋げる。また家庭と地域社会の連携や子育て支援としての役割を理解する。	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	「ソーシャルワーク実習Ⅰ」に係る個別指導、集団指導並びに現場体験学習、見学実習等を通して、ソーシャルワークに必要な倫理、知識、技術や実習計画書の作成方法などについて具体的かつ実際に学ぶ。ソーシャルワーク実習の意義について理解する、ソーシャルワークに係る知識と技術について実際的に理解し実践的な技術を体得する、専門職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得することを目標とする。	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の事後学習として、個別指導、集団指導を通して振り返りや事例検討を行い、具体的な体験や援助活動を専門的援助活動として体系化していくことができる能力を修得し、実習総括レポートを作成する。また、ソーシャルワークに必要な倫理、知識、技術や実習計画書の作成方法などについて具体的かつ実際に理解し、「ソーシャルワーク実習Ⅱ」に必要な準備を行う。	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	「ソーシャルワーク実習Ⅱ」の事後学習として、個別指導、集団指導を通して振り返りや事例検討を行い、具体的な体験や援助活動を専門的援助活動として体系化していくことができる能力を修得し、実習総括レポートを作成し、実習の評価の報告会を行う。	
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	実習を通して、利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成、利用者やそのニーズの把握及び支援計画の作成、利用者やその関係者との援助関係の形成、利用者やその関係者への権利擁護および支援とその評価、専門職としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業に関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解を深める。	
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	実習を通して、利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成、利用者やそのニーズの把握及び支援計画の作成、利用者やその関係者との援助関係の形成、利用者やその関係者への権利擁護および支援とその評価、専門職としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業に関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解、多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチ、施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際、実習先が地域社会の中の施設・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解を深める。	



授 業 科 目 の 概 要			
(社会福祉学部子ども福祉学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門展開科目	幼児教育実習指導	幼稚園教諭一種免許取得に必要な幼児教育実習の意義・目的を明らかにする。卓越した専門性を持った保育者になるためには、机上の学習だけでなく、実際の子どもと関わる必要が生じる。子どもとの関わりから自らの保育を捉え直し、そこから得た課題を次の実践で取り組む。こういった学びの循環の効果を高めるために、実習の目的意識を把握し、自己課題を明確にして実習に臨む。実習後には取り組みを振り返り、理想とする保育者像、自らの保育観の形成を促し、社会にフィードバックできる力を養う。	
	幼児教育実習Ⅰ	目的意識を常に意識しながら、幼稚園における指導と援助の実際を体験し、保育技術を高めるとともに、一人の人として如何に「人」と関わるか、という保育者としての適正を探る。卓越した専門の保育技術を持つ幼児教育者を目指し、机上の学問だけでなく、実際の子どもと関わることから、理論と実践の結びつきを図る。また、子どもと生活を共にすることで、一日の流れと保育者の職務内容を理解する。	
	幼児教育実習Ⅱ	4年生保育者養成課程の集大成となる「幼児教育実習Ⅱ」では、保育者としての総合的な視点と保育技術を総動員して実践に臨み、保育者として自立し、自覚することを目指す。理想とする保育者像を意識し、保育観の確立に繋げ、子どもの活動意欲を高める指導・援助法を学ぶ。常に自己分析し、今後の課題を見つけると共に自己の向上を図る。	
	早期現場体験指導	免許・資格取得の目標をもって幼稚園・保育所・認定こども園・児童福祉施設で対象となる子ども・利用者に関わり、現場の保育者・職員の職務、施設の役割を知るとともに、対象となる子ども・利用者に関わって「合わせて関わること」をその後続く「保育実習Ⅰ」、「保育実習Ⅱ」、「幼児教育実習Ⅰ」、「幼児教育実習Ⅱ」の第一歩とする。早期現場体験に向けた事前課題に取り組み、現場で学ぶに必要な知識、意識、心構えなど、十分に準備を整えることを目標とする。	
	早期現場体験	保育士資格、幼稚園教諭一種免許取得の各実習に対する、事前の現場体験である。保育の理論的学びを支えるため、自分の肌で感じる経験を重ねる。この体験を通し「人と関わる力」を養い、「相手の動きにあわせる」ことから「保育に必要なこと」を自ら見出し主体的に学ぶ力をつける。保育所・幼稚園・認定こども園において、保育に参加し保育所・幼稚園の役割、保育者の仕事などを知る。子どもとの関わりを記録し、自らの関わりに気づく力を養う。	
	教育関係法規	日本の教育制度は、日本国憲法及び種々の法令によって組織、運営されている。本講義では、基本的な教育関係法規を概説し、併せて学校現場における具体的な問題について考察する。とりわけ、平成18年の教育基本法改正以降の教育法制に焦点を当てるとともに、期末には主要な教育裁判の考察を行う。憲法、教育基本法、学校教育法など、教育に関する基本的な法令を学び、併せて教育制度についての基本的事項を修得する。主要な教育裁判を考察し、教育現場における様々な活動の法的根拠を確かめ、教育関係法規を総合的に理解する。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(社会福祉学部子ども福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育情報機器演習	学校教育でのマルチメディアの活用は不可欠である。この授業では身近な各種情報機器のマルチメディア特性を理解した上で、それらを学校での教育・研究、学校事務に生かすための知識と技能を修得する。Office上で使用できるWord/Excel/Powerpointを復習し、実践で使用できるようになる、またいろいろなメディア、アニメーション、静止画、動画、音声などをコンピュータ上で使用し、編集できるようになることを目標とする。	
	保育・教職実践演習（幼稚園）	その人らしく保育士・教員となることを目指し、これまで行ってきた保育実習・幼児教育実習を踏まえ、人間理解と自己表現をロールプレイング・ディスカッションを重ね、総体的に体験する。また、保育士・幼稚園教諭としての感性を磨くことをテーマとし、総合的表現と討論を積み重ねることで、他者と出会うことのできる自己を築く。	共同
	ジェンダー	この授業で「ジェンダー」とは、「その社会で共有されている性別に対する考え方」のことを言う。まず、言葉、家族、教育、労働、結婚、性暴力、売買春、人工妊娠中絶、同性愛、性同一性障害などの具体的なトピックスを通して、ジェンダーと性現象にまつわる基本的な考え方を学ぶ。次に、日本の歴史の流れや他の先進国の状況を参照しながら、現代日本の状況を知り、それに関する論点について考える。	
専門 展開 科目	海外文化・福祉事情	事前に訪問地域の知識を修得し、訪問国の文化・福祉を学ぶ。訪問国への海外研修を体験する。海外の文化事情及び福祉事情を学び日本と比較検討できること、海外研修を通して自己の価値を再発見できること、海外研修を通して学生としての学びを深め、思考の幅を広げられることを目標とする。	共同
	国際福祉政策	欧米主要国を中心とした各国の労働施策や社会保障制度について学ぶ。各国の労働施策、各国の社会保障制度について理解することを目標とする。	
	基礎ゼミ I	基礎ゼミ I では、社会福祉・保育及び関連分野について、各自が興味を持つテーマを選択し、テーマ関連領域を専門分野とする教員の指導の下に少人数ゼミ形式で学習を行う。ゼミにおける発表・ディスカッションを体験して、発表・討議に習熟すると共に、選択テーマについて基礎的な学習を行うことを目指す。	
	基礎ゼミ II	基礎ゼミ II では、基礎ゼミ I での学習を発展させ、各自が興味を持つテーマについての学習を深めていく。また、卒業研究のテーマを選択するために、各自の問題意識の明確化を進める。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(社会福祉学部子ども福祉学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 展開 科目	卒業研究ゼミ I	卒業研究ゼミ I では、指導教員毎の少人数ゼミ形式で、卒業論文に取りかかるための準備学習を行う。各自が興味ある現象の中から、卒業研究のテーマを設定し、ゼミでの発表・討論や指導教員の個別指導を重ねることによって、先行研究や必要となる方法論を学習し、研究計画を立案できる能力を身につける。	
	卒業研究ゼミ II	卒業研究ゼミ II では、指導教員毎の少人数ゼミ形式で、卒業論文をまとめるための学習を行う。発表や討論を重ねることにより、各自の研究における問題点を抽出し、課題を明らかにし、それらを解決するための科学的アプローチを理解し、実践するなかで、卒業後の生涯学習にも必要な主体的問題解決能力を身につける。	
	福祉総合学習	社会福祉士に必要な基本的知識を確実に身につけることができるよう、これまで学んできた社会福祉関係科目の総合的なふりかえりを行う。社会福祉士に必要な基本的知識を確実に身につけ、まとめを行なうことができることを目標とする。	
	福祉総合演習	ソーシャルワークを行うために必要な知識・技術・理念等を着実に身につけ、援助技術の実践場面で必要とされる対応ができるようにこれまでの学習内容の総合的なふりかえりとそのまとめを行う。社会福祉士として必要な基礎的知識と法制度への理解、および援助技術が着実に修得なされているかについて確認し、専門職としての仕事の意義や役割、機能について説明することができることを目標とする。	
	卒業論文	これまで学内・外で学んだ社会福祉に関連する理念・知識・技術等を基礎として、各自が研究課題を設定し、研究計画を立案し、データを収集・分析する。得られた知見をもとに卒業論文をまとめることによって、4年間の学習の集大成とする。	
留学生 科目	日本語 I	日本語表現文型の学習を進めるとともに、言語知識（文字・語彙）や聴解や読解などの練習を行う。日本語能力試験N 2（2級）レベルの実力をつけることを目標とする。	
	日本語 II	「日本語 I」に引き続き、日本語表現文型の学習を進める。また、言語知識（文字・語彙）や聴解や読解などの練習も行う。日本語能力試験N 2（2級）合格を目指すとともに、さらなる日本語能力の向上を目指す。	

## 授 業 科 目 の 概 要

(社会福祉学部子ども福祉学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
留 学 生 科 目	日本語Ⅲ	「読む・書く・話す・聞く」の総合的な言語能力と自立学習を培う。大学での専門的な講義や演習、教科書の理解に支障がない実力修得を目指し、コミュニケーション能力の向上と、正確に自分の意見や考えが表現できるようになることを目標とする。	
	言葉と文化（日本語）Ⅰ	「日本語Ⅱ」に引き続き、日本語表現文型の学習を進める。また、言語知識（文字・語彙）や聴解や読解の練習に加え、新聞の講読を通じて現代的な新語や流行語、略語などの意味や用法についても学ぶ。日本語能力試験N1（1級）レベルの実力をつけることを目標とする。	
	言葉と文化（日本語）Ⅱ	「言語と文化（日本語）Ⅰ」に引き続き、日本語表現文型の学習を進める。また、言語知識（文字・語彙）や聴解や読解の練習に加え、新聞の講読を通じて現代的な新語や流行語、略語などの意味や用法についても学ぶ。日本語能力試験N1（1級）合格を目指す。	